

第16回ペスタロッチー教育賞 表彰式主催者挨拶

大学院教育学研究科長 坂 越 正 樹

本日は、ペスタロッチー教育賞第16回表彰式、記念講演にご参加いただき、誠に有り難うございます。

今回の賞は、障害をもった子どもたちの教育実践に多大な功績をあげてられました「しいのみ学園園長、昇地三郎先生」にお受けいただくことができました。

昇地先生が、しいのみ学園を開設されたのは、昭和29年4月のことでした。当時先生はいまの福岡教育大学で心理学をご専門に教鞭をとっておられました。先生ご自身のお子さまを含む12人の脳性小児麻痺の子どもたち、当時「就学猶予」あるいは「就学免除」という言葉で、実は教育の場から閉め出されていた子どもたちの学びと成長の場を、私財を投じて設立されたのです。

当時の苦闘のご様子は、御著書の『しいのみ学園』や『しいのみの子供たち』に詳しいのですが、さらに昭和30年に新東宝で封切りされた映画「しいのみ学園」が、先生のご活動を全国的に広めるものとなりました。この映画は清水宏監督、香川京子主演で、当時の昇地先生の役は宇野重吉、「ぼくらはしいのみ」という主題歌とともに文字どおり日本全国でヒットしたそうです。

このような昇地先生のご活動に、実は昭和31年(1956年)に広島大学教育学部から第2回ペスタロッチー賞が贈呈されています。この賞は今日のペスタロッチー教育賞の前身にあたる賞で、昭和30年から41年まで12回にわたって、昇地先生をはじめ玉川学園・小原国芳先生、国語教育の大村はま先生など、教育の第一線で活躍されていた方々が受賞されています。

広島大学の前身、広島高等師範学校では大正10年頃からペスタロッチーを真の教育の象徴として、日本のペスタロッチー運動を牽引し、世界のペスタロッチー研究に貢献してきました。その中心におられたのが最後の広島文理科大学長・長田新教授であり、毎年ペスタロッチーの命日である2月17日に、ペスタロッチーを講べる夕べやペスタロッチー祭を催していたのですが、昭和30年に先のペスタロッチー賞を創設したのは新制広島大学として大きく発展しようという、そのときあらためてペスタロッチーの教育精神に注目することになったのではないかと推測します。

昇地先生は、その長田新教授から、しいのみ学園の活動について、「君、この仕事はね、世界の歴史に残る仕事だよ」と声をかけていただいたと述懐されています。

さて、このペスタロッチー賞を昇地先生が受けられてから、ちょうど50年が経過しています。50年間変わらず、障害をもった子どもたちのための現役の教育者、教育学者として活動され、さらにそれを世界のフィールドに広げ展開されていることは、本当に驚嘆すべきことと感じます。最初の受賞から50年間の先生のご尽力に対し、この度、いわば

2回目のペスタロッチー教育賞，受賞となられたわけです。

先日，先生からいただいたご著書をあらためて拝読すると，101歳までお元気で活躍される秘訣のようなものがここかしこに見られます。何せ88歳の時に出された本の名前が『生涯現役』というものであり，100歳の時のご本は『ただいま100歳，今からでも遅くはない』というものです。

先生の子どもたちへの愛情，教育の取組に関しましても，宝のような言葉がご著書にあふれています。ここではペスタロッチーとの関連で，1カ所だけ紹介させていただきます。

しいのみ学園に入園してきた子どもたちは，果たしてその芽をだしたであろうか，という問いに対して，先生は，多くの子どもがすばらしい成長を遂げ，就職までしていったと述べられた後，次のように記されております。

「教育における奇跡とでもいうべき事実が実際に起こったのである。それは，私が教育したからではない。子ども一人一人が，自分の心の底に眠っていた潜在的能力を，子ども相互の力でゆさぶり起こし，学園の生活の中で，自分自身がその芽を力強く育てていったのである。」

私は先生のこの言葉に，シュタンツ孤児院でのペスタロッチーの姿を見いだします。ペスタロッチーが預かった子どもたちは，戦争で親を失い，あるいは親に遺棄され，すさんだ心と身体で盗みや脱走を繰り返していました。どんな強制力をもってしても無駄な結果に終わる状態の中で，ペスタロッチーが行き着いたのは，「子どもたちの内面に働きかけ，内面をめざめさせる」しかない，という教育の境地でした。もちろん，それが可能になるのは，子どもたちとともに泣き，子どもたちとともに笑う，常に子どもたちとともにあるというペスタロッチーの献身があったからです。

昇地先生が，しいのみ学園で成し遂げた教育の奇蹟は，まさにペスタロッチーの精神そのものによる奇蹟といえるでしょう。

今日ここに，昇地先生にペスタロッチー教育賞をお贈りいたしますことは，私たちにとりまして大きなよろこびとするところでございますし，また誠に有り難いことと存じております。

昇地先生，本日はご遠方までお越し下さいまして本当に有り難うございます。また後ほど，記念講演で先生に貴重なお話をいただけますことを心より感謝申し上げます。

以上，措辞ではございますが，教育学研究科長のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠に有り難うございました。